

の牛を買つたれ之を試むる爲に往ん願く我を允じ給へ又一人の者いひける我妻を娶たり是故に往
 ことを得ざる也 其僕かへりて此事を主人に告げれば主人怒て其僕に曰ける速かに邑の御巷に往て貧
 者癱疾跛者替者なを此に引來れ僕いひける主よ命の如く行り然急向わすりの座あり主人僕
 に曰ける道隙や溝籬の邊にゆき強て人々を引來り我家に盈しめよ 我なちらに告ん彼さねきたる人
 一人にだに我餐を遣ふ者あし 〇多の人々イエスと偕に行じがイエス願ひて彼等に曰ける凡
 我に來ての父母妻子兄弟姉妹また己の生命をも憎む者に非ざれば我弟子と爲てをす 又の十字
 架を任ずして我に從ふ者我弟子と爲てをす かんちら誰か城を築かん先坐して其費の事の竣
 まで足や否を計ざらん乎 恐くハ基を置て之を成能すべ見者みな剛突て 此人ハ築始て成遂ざりしと
 曰ん また王いでて他の王と戰はんに先坐して此一萬人をもて彼二萬人に敵すべきや否を籌ざらん乎
 もし及すバ敵なは遠れる時に使を遣して和睦を求べし 然バ此の如く爾曹の所有を盡く捨ざる者ハ
 我弟子と爲てをす 鹽ハ善物ナリ然ども鹽の味を失はば何をもて之に味を和んや 田中も鹽に
 盆なく外に棄ちらるるなり耳ありて聽る者ハ聽べし
 爾曹はさて稅吏と罪ある者どもイエスも聽んとて近よりければ 〇パリサイの人と學者たち議論て曰
 ける此人ハ罪ある人に接りて共に食せり 〇イエス此言を彼等に語て曰ける 〇爾曹のうち誰か一百
 羊あらんに若うの一を失之九十九を野におき往て其失し羊を獲までハ尋ざらん乎 尋得れば喜て之を已
 の肩か負 家に歸て其友と其細の人々を召集て曰ん我と共に喜べ我うしかへる羊を獲たれ之也 〇爾
 曹も告ん此の如く一人の罪ある人悔改すバ悔改むるに及ざる九十九の義人よりハ尙天に於て喜わらん
 八 又婦のうち誰か金銀十枚をもち其一枚を失はばに燈火を燃て家を掃除し之を獲までハ一切を尋ざらん
 乎 尋得れば其友と其細の人々を召集て曰ん我と共に喜べ我うしなへる金銀を獲たれバ也 〇爾曹も告
 ん此の如く一人の罪ある人悔改めば神の使の前に喜ぶるべし 〇 また曰けるハ或人二人あり 〇の
 季子父に曰ける父よ我得べき業を我に分ずよ父の産を彼等も分たれば 幾日も過ぎるに季子の産
 を盡く集て遠國へ旅行せしガ放蕩にして其分産を皆うてて耗せり 〇 盡く耗しとき大なる饑饉の
 地に有て彼どもしく爲はしめければ 往て其地の一民に身を投たり其人家を破ためて彼を野お遣せり
 かれ家食する所の豆莢をもて己が腹を果さんと欲ふはば何れに彼にす人なし 自ら省悟て曰
 ける我父の所に食物あまされる者なり 爾の傭人の一人の如く我を爲たせよ 即ち起て
 爾の前に罪を犯たれば 爾の子と稱るに足ざる者なり 爾の傭人の一人の如く我を爲たせよ 即ち起て
 其父に往り尙とほく有しに其父かれを見て憫み趨其頸を抱て接吻しぬ 〇 子父に曰ける父よ我天と爾
 の前に罪を犯たれば 爾の子と稱るに足ざる也 〇 父の僕等に曰けるハ至も美服を携來りて之に衣せま指
 に環を之め其足に履を穿せよ 〇 また肥たる犢を奉來りて宰れ我儕食して樂まん 〇 是れが子死て復生し
 ちひて復得たれ之也 〇 彼等と共に樂み始め 〇 兄弟田に在し歸て家ち近き樂と舞の音を聞 〇 の僕
 の一人を召ては何事かやと問るに 僕曰けるハ爾の弟歸りたり 〇 然く彼を得たりしに因て爾が父肥たる
 犢を娶たるあり 〇 兄いかりて入す是故に其父いでて彼に勸じかバ 父に答て曰けるハ我多年なち事
 て未だ爾の命に肯す 然ども我友と樂む爲に 〇 然に汝の爲に爾の業を耗したる此なち
 子がかへれば之が爲に肥たる犢を宰れり 〇 父かれに曰けるハ子よ爾ハ常に我と共に在りて我所有ハ皆な

ハ 八六八
 一 八六九
 一 八七〇
 一 八七一
 一 八七二
 一 八七三
 一 八七四
 一 八七五
 一 八七六
 一 八七七
 一 八七八
 一 八七九
 一 八八〇
 一 八八一
 一 八八二
 一 八八三
 一 八八四
 一 八八五
 一 八八六
 一 八八七
 一 八八八
 一 八八九
 一 八九〇
 一 八九一
 一 八九二
 一 八九三
 一 八九四
 一 八九五
 一 八九六
 一 八九七
 一 八九八
 一 八九九
 一 九〇〇
 一 九〇一
 一 九〇二
 一 九〇三
 一 九〇四
 一 九〇五
 一 九〇六
 一 九〇七
 一 九〇八
 一 九〇九
 一 九一〇
 一 九一一
 一 九一二
 一 九一三
 一 九一四
 一 九一五
 一 九一六
 一 九一七
 一 九一八
 一 九一九
 一 九二〇
 一 九二一
 一 九二二
 一 九二三
 一 九二四
 一 九二五
 一 九二六
 一 九二七
 一 九二八
 一 九二九
 一 九三〇
 一 九三一
 一 九三二
 一 九三三
 一 九三四
 一 九三五
 一 九三六
 一 九三七
 一 九三八
 一 九三九
 一 九四〇
 一 九四一
 一 九四二
 一 九四三
 一 九四四
 一 九四五
 一 九四六
 一 九四七
 一 九四八
 一 九四九
 一 九五〇
 一 九五二
 一 九五三
 一 九五四
 一 九五五
 一 九五六
 一 九五七
 一 九五八
 一 五九九
 一 九六〇
 一 九六一
 一 九六二
 一 九六三
 一 九六四
 一 九六五
 一 九六六
 一 九六七
 一 九六八
 一 九六九
 一 九七〇
 一 九七一
 一 九七二
 一 九七三
 一 九七四
 一 九七五
 一 九七六
 一 九七七
 一 九七八
 一 九七九
 一 九八〇
 一 九八一
 一 九八二
 一 九八三
 一 九八四
 一 九八五
 一 九八六
 一 九八七
 一 九八八
 一 九八九
 一 九九〇
 一 九九一
 一 九九二
 一 九九三
 一 九九四
 一 九九五
 一 九九六
 一 九九七
 一 九九八
 一 九九九
 二〇〇〇

の牛を買つたれ之を試むる爲に往ん願く我を允じ給へ又一人の者いひける我妻を娶たり是故に往
 ことを得ざる也 其僕かへりて此事を主人に告げれば主人怒て其僕に曰ける速かに邑の御巷に往て貧
 者癱疾跛者替者なを此に引來れ僕いひける主よ命の如く行り然急向わすりの座あり主人僕
 に曰ける道隙や溝籬の邊にゆき強て人々を引來り我家に盈しめよ 我なちらに告ん彼さねきたる人
 一人にだに我餐を遣ふ者あし 〇多の人々イエスと偕に行じがイエス願ひて彼等に曰ける凡
 我に來ての父母妻子兄弟姉妹また己の生命をも憎む者に非ざれば我弟子と爲てをす 又の十字
 架を任ずして我に從ふ者我弟子と爲てをす かんちら誰か城を築かん先坐して其費の事の竣
 まで足や否を計ざらん乎 恐くハ基を置て之を成能すべ見者みな剛突て 此人ハ築始て成遂ざりしと
 曰ん また王いでて他の王と戰はんに先坐して此一萬人をもて彼二萬人に敵すべきや否を籌ざらん乎
 もし及すバ敵なは遠れる時に使を遣して和睦を求べし 然バ此の如く爾曹の所有を盡く捨ざる者ハ
 我弟子と爲てをす 鹽ハ善物ナリ然ども鹽の味を失はば何をもて之に味を和んや 田中も鹽に
 盆なく外に棄ちらるるなり耳ありて聽る者ハ聽べし
 爾曹はさて稅吏と罪ある者どもイエスも聽んとて近よりければ 〇パリサイの人と學者たち議論て曰
 ける此人ハ罪ある人に接りて共に食せり 〇イエス此言を彼等に語て曰ける 〇爾曹のうち誰か一百
 羊あらんに若うの一を失之九十九を野におき往て其失し羊を獲までハ尋ざらん乎 尋得れば喜て之を已
 の肩か負 家に歸て其友と其細の人々を召集て曰ん我と共に喜べ我うしかへる羊を獲たれ之也 〇爾
 曹も告ん此の如く一人の罪ある人悔改すバ悔改むるに及ざる九十九の義人よりハ尙天に於て喜わらん
 八 又婦のうち誰か金銀十枚をもち其一枚を失はばに燈火を燃て家を掃除し之を獲までハ一切を尋ざらん
 乎 尋得れば其友と其細の人々を召集て曰ん我と共に喜べ我うしなへる金銀を獲たれバ也 〇爾曹も告
 ん此の如く一人の罪ある人悔改めば神の使の前に喜ぶるべし 〇 また曰けるハ或人二人あり 〇の
 季子父に曰ける父よ我得べき業を我に分ずよ父の産を彼等も分たれば 幾日も過ぎるに季子の産
 を盡く集て遠國へ旅行せしガ放蕩にして其分産を皆うてて耗せり 〇 盡く耗しとき大なる饑饉の
 地に有て彼どもしく爲はしめければ 往て其地の一民に身を投たり其人家を破ためて彼を野お遣せり
 かれ家食する所の豆莢をもて己が腹を果さんと欲ふはば何れに彼にす人なし 自ら省悟て曰
 ける我父の所に食物あまされる者なり 爾の傭人の一人の如く我を爲たせよ 即ち起て
 爾の前に罪を犯たれば 爾の子と稱るに足ざる者なり 爾の傭人の一人の如く我を爲たせよ 即ち起て
 其父に往り尙とほく有しに其父かれを見て憫み趨其頸を抱て接吻しぬ 〇 子父に曰ける父よ我天と爾
 の前に罪を犯たれば 爾の子と稱るに足ざる也 〇 父の僕等に曰けるハ至も美服を携來りて之に衣せま指
 に環を之め其足に履を穿せよ 〇 また肥たる犢を奉來りて宰れ我儕食して樂まん 〇 是れが子死て復生し
 ちひて復得たれ之也 〇 彼等と共に樂み始め 〇 兄弟田に在し歸て家ち近き樂と舞の音を聞 〇 の僕
 の一人を召ては何事かやと問るに 僕曰けるハ爾の弟歸りたり 〇 然く彼を得たりしに因て爾が父肥たる
 犢を娶たるあり 〇 兄いかりて入す是故に其父いでて彼に勸じかバ 父に答て曰けるハ我多年なち事
 て未だ爾の命に肯す 然ども我友と樂む爲に 〇 然に汝の爲に爾の業を耗したる此なち
 子がかへれば之が爲に肥たる犢を宰れり 〇 父かれに曰けるハ子よ爾ハ常に我と共に在りて我所有ハ皆な

ハ 八六八
 一 八六九
 一 八七〇
 一 八七一
 一 八七二
 一 八七三
 一 八七四
 一 八七五
 一 八七六
 一 八七七
 一 八七八
 一 八七九
 一 八八〇
 一 八八一
 一 八八二
 一 八八三
 一 八八四
 一 八八五
 一 八八六
 一 八八七
 一 八八八
 一 八八九
 一 九〇〇
 一 九〇一
 一 九〇二
 一 九〇三
 一 九〇四
 一 九〇五
 一 九〇六
 一 九〇七
 一 九〇八
 一 九〇九
 一 九一〇
 一 九一一
 一 九一二
 一 九一三
 一 九一四
 一 九一五
 一 九一六
 一 九一七
 一 九一八
 一 九一九
 一 九二〇
 一 九二一
 一 九二二
 一 九二三
 一 九二四
 一 九二五
 一 九二六
 一 九二七
 一 九二八
 一 九二九
 一 九三〇
 一 九三一
 一 九三二
 一 九三三
 一 九三四
 一 九三五
 一 九三六
 一 九三七
 一 九三八
 一 九三九
 一 九四〇
 一 九四一
 一 九四二
 一 九四三
 一 九四四
 一 九四五
 一 九四六
 一 九四七
 一 九四八
 一 九四九
 一 九五〇
 一 九五二
 一 九五三
 一 九五四
 一 九五五
 一 九五六
 一 九五七
 一 九五八
 一 五九九
 一 九六〇
 一 九六一
 一 九六二
 一 九六三
 一 九六四
 一 九六五
 一 九六六
 一 九六七
 一 九六八
 一 九六九
 一 九七〇
 一 九七一
 一 九七二
 一 九七三
 一 九七四
 一 九七五
 一 九七六
 一 九七七
 一 九七八
 一 九七九
 一 九八〇
 一 九八一
 一 九八二
 一 九八三
 一 九八四
 一 九八五
 一 九八六
 一 九八七
 一 九八八
 一 九八九
 一 九九〇
 一 九九一
 一 九九二
 一 九九三
 一 九九四
 一 九九五
 一 九九六
 一 九九七
 一 九九八
 一 九九九
 二〇〇〇

八ちの塵あり 爾の弟死て復生しなむ以て復得たるが故に我儕喜て樂むの當然の事あり
三十二節 イエスが弟子に曰けるハ或富人に操會者ありけるが主の所有を耗しど主人へ訴らる
 主人操會者を呼て曰けるハ爾に就て我ききたる事ハ何ぞや今後なんちを操會者と爲之されバ其會計た
 る條件を我に擧よ 操會者みづから意るハ主人ハが操會を爲ンバ何を爲ン我儕を執にハカバ施を乞ハ
 耻かし 爾れ操會を爲ルハ時ハ是等の家に迎らるべき所爲を知りどて 遂に主人の負債人を悉く召て
 其首の者に曰けるハ爾ハが主に負債に候ある手 答ていふ 拙百斗あり 彼に曰けるハ爾の券書を取り
 ちぎ坐して五十と書よ 又一人に曰けるハ爾の負債幾何あるや 答ていふ 小麥百斛なり 彼に曰けるハ爾の
 券書を取て八十と書よ 主人ハの所爲の巧なるに因て此不義なる操會者を譽たり 夫て世の子輩ハ此世
 に於リ光の子輩よりも尤も巧かり 我かちちらに告ン不義の財を以て己が友を得よ 此ハ乏からん時かれ
 ら爾を永遠宅に接ハガ爲なり 小事に思者ハ大事小も思ク小事に思からざる者ハ大事も思からず
 故に若んちら不義の財に思からず 誰か眞の財を爾曹に託ンや 爾曹も人の所有に不義なら 誰
 か爾の所有を爾に與ンや 一人の僕ハ二人の主人に事するて能ず 蓋これ惡かれを愛し或ハ此を重んじ
 彼を輕んずれば也 ならん神と財に兼事するて能ず 憐ふかきパリスヤの八々此事を聞てイエスを嘲哂
 たり イエス彼等に曰けるハ爾曹の八々の前に自己を義とする者なり 然ども神ハ爾曹の心を察り 夫人の
 崇公所の者ハ神の前に惡る者なり 律法と預言者ハヨハ子と成なり 其のち神の國ハ宣傳する皆用力て
 之に入んと爲なり 天地の應るハ律法の一畫の廢るよりも易し 凡ハ其妻を出して他の者を娶ハ 姦淫を
 行ハ也 夫不出されたる婦を娶る者も姦淫を行ハなり ○爰に富人ハあり 紫袍と細布を衣て日々奢樂

路十五章
 一節 至十一節
 十二節 至十六節
 十七節 至十九節
 二十節 至二十一節
 二十二節 至二十三節
 二十四節 至二十五節
 二十六節 至二十七節
 二十八節 至二十九節
 三十節 至三十一節
 三十二節 至三十三節
 三十四節 至三十五節
 三十六節 至三十七節
 三十八節 至三十九節
 四十節 至四十一節
 四十二節 至四十三節
 四十四節 至四十五節
 四十六節 至四十七節
 四十八節 至四十九節
 五十節 至五十一節
 五十二節 至五十三節
 五十四節 至五十五節
 五十六節 至五十七節
 五十八節 至五十九節
 六十節 至六十一節
 六十二節 至六十三節
 六十四節 至六十五節
 六十六節 至六十七節
 六十八節 至六十九節
 七十節 至七十一節
 七十二節 至七十三節
 七十四節 至七十五節
 七十六節 至七十七節
 七十八節 至七十九節
 八十節 至八十一節
 八十二節 至八十三節
 八十四節 至八十五節
 八十六節 至八十七節
 八十八節 至八十九節
 九十節 至九十一節
 九十二節 至九十三節
 九十四節 至九十五節
 九十六節 至九十七節
 九十八節 至九十九節
 百節 至百一節
 百二節 至百三節
 百四節 至百五節
 百六節 至百七節
 百八節 至百九節
 百十節 至百一十節
 百一十一節 至百一十二節
 百一十三節 至百一十四節
 百一十五節 至百一十六節
 百一十七節 至百一十八節
 百一十九節 至百二十節
 百二十一節 至百二十二節
 百二十三節 至百二十四節
 百二十五節 至百二十六節
 百二十七節 至百二十八節
 百二十九節 至百三十節
 百三十一節 至百三十二節
 百三十三節 至百三十四節
 百三十五節 至百三十六節
 百三十七節 至百三十八節
 百三十九節 至百四十節
 百四十一節 至百四十二節
 百四十三節 至百四十四節
 百四十五節 至百四十六節
 百四十七節 至百四十八節
 百四十九節 至百五十節
 百五十一節 至百五十二節
 百五十三節 至百五十四節
 百五十五節 至百五十六節
 百五十七節 至百五十八節
 百五十九節 至百六十節
 百六十一節 至百六十二節
 百六十三節 至百六十四節
 百六十五節 至百六十六節
 百六十七節 至百六十八節
 百六十九節 至百七十節
 百七十一節 至百七十二節
 百七十三節 至百七十四節
 百七十五節 至百七十六節
 百七十七節 至百七十八節
 百七十九節 至百八十節
 百八十一節 至百八十二節
 百八十三節 至百八十四節
 百八十五節 至百八十六節
 百八十七節 至百八十八節
 百八十九節 至百九十節
 百九十一節 至百九十二節
 百九十三節 至百九十四節
 百九十五節 至百九十六節
 百九十七節 至百九十八節
 百九十九節 至百一十節
 百一十一節 至百一十二節
 百一十三節 至百一十四節
 百一十五節 至百一十六節
 百一十七節 至百一十八節
 百一十九節 至百二十節
 百二十一節 至百二十二節
 百二十三節 至百二十四節
 百二十五節 至百二十六節
 百二十七節 至百二十八節
 百二十九節 至百三十節
 百三十一節 至百三十二節
 百三十三節 至百三十四節
 百三十五節 至百三十六節
 百三十七節 至百三十八節
 百三十九節 至百四十節
 百四十一節 至百四十二節
 百四十三節 至百四十四節
 百四十五節 至百四十六節
 百四十七節 至百四十八節
 百四十九節 至百五十節
 百五十一節 至百五十二節
 百五十三節 至百五十四節
 百五十五節 至百五十六節
 百五十七節 至百五十八節
 百五十九節 至百六十節
 百六十一節 至百六十二節
 百六十三節 至百六十四節
 百六十五節 至百六十六節
 百六十七節 至百六十八節
 百六十九節 至百七十節
 百七十一節 至百七十二節
 百七十三節 至百七十四節
 百七十五節 至百七十六節
 百七十七節 至百七十八節
 百七十九節 至百八十節
 百八十一節 至百八十二節
 百八十三節 至百八十四節
 百八十五節 至百八十六節
 百八十七節 至百八十八節
 百八十九節 至百九十節
 百九十一節 至百九十二節
 百九十三節 至百九十四節
 百九十五節 至百九十六節
 百九十七節 至百九十八節
 百九十九節 至百一十節

へり 又大きたりて其塵物を紙 資者死たまハ 天の使者たち依てアラハムの懷に送れたり 富人も死
 て葬られしが 陰府にて痛苦をうけ 其目をあげ 遙にアラハムと其懷に在ラザロを見て 嗚叫いひける
 ハ 父アラハムよ 我を憐れ ラザロを遣して 其指の尖を水に蘸わが舌を活しめ給へ 我この火獄の中に苦め
 たり 父アラハム曰けるハ子よ 爾ハ生たりし時 爾の福を受たまラザロハ其苦を受しを慮へん 今かれハ
 慰られ 爾ハ苦めらるなり 斯耳ならず 此より爾曹に涉んども 待す 彼より我儕に涉んども 亦
 亦之ざる爲に 我儕と爾曹との間に限おかれたる巨なる淵あり 答けるハ 然父よ 願くハ我父の家ハラザ
 ロを遣たまへ 蓋われに五人の兄弟あり 亦かれらが此苦の所に來ざる爲にラザロを證據に爲しめよ
 プラハム曰けるハ 彼等ハモ一セと預言者おれば 之も聽べし 答けるハ 然父アラハムよ 死より
 復生おす者おらバ 悔敗べし 三 プラハム曰けるハ 若モ一セと預言者お聽すバ 縱ハ死より甦る者ありども
 其勸を受ざるべし
三十三節 イエス弟子に曰けるハ 躓ざる事かならず 來らん其を來らす者ハ 爾なる哉 この小子の一人
 を躓ざるよりハ 磨石を頸に懸られて 海に投入られんこと 其人の爲に宜るべし 自己を謹慎よ 若兄弟なん
 ちに罪を犯さバ 之を讀よ 彼も悔心を免せ もし一日に七次罪を爾お犯して 一日ハ七次なんちに對われ
 悔と曰 死すべし ○ 使徒主に曰けるハ 我儕も信を益せよ 主いひけるハ 爾曹もし 某種一粒ほどの信お
 らバ 此 桑樹に 拔て 海に 植れ 且 ども 爾曹に 從入 べし 誰か 爾曹の中に 或ハ 刺し 或ハ 釘 置 べし 爾
 田より 歸たる 時 亟かに 往て 食 べし といふ 者 ならん 乎 反て 曰 ず 我食を 備わ ば 食 飲を ば ざる まで 帶を 束 わ

路十五章
 一節 至十一節
 十二節 至十六節
 十七節 至十九節
 二十節 至二十一節
 二十二節 至二十三節
 二十四節 至二十五節
 二十六節 至二十七節
 二十八節 至二十九節
 三十節 至三十一節
 三十二節 至三十三節
 三十四節 至三十五節
 三十六節 至三十七節
 三十八節 至三十九節
 四十節 至四十一節
 四十二節 至四十三節
 四十四節 至四十五節
 四十六節 至四十七節
 四十八節 至四十九節
 五十節 至五十一節
 五十二節 至五十三節
 五十四節 至五十五節
 五十六節 至五十七節
 五十八節 至五十九節
 六十節 至六十一節
 六十二節 至六十三節
 六十四節 至六十五節
 六十六節 至六十七節
 六十八節 至六十九節
 七十節 至七十一節
 七十二節 至七十三節
 七十四節 至七十五節
 七十六節 至七十七節
 七十八節 至七十九節
 八十節 至八十一節
 八十二節 至八十三節
 八十四節 至八十五節
 八十六節 至八十七節
 八十八節 至八十九節
 九十節 至九十一節
 九十二節 至九十三節
 九十四節 至九十五節
 九十六節 至九十七節
 九十八節 至九十九節
 百節 至百一節
 百二節 至百三節
 百四節 至百五節
 百六節 至百七節
 百八節 至百九節
 百十節 至百一十節
 百一十一節 至百一十二節
 百一十三節 至百一十四節
 百一十五節 至百一十六節
 百一十七節 至百一十八節
 百一十九節 至百二十節
 百二十一節 至百二十二節
 百二十三節 至百二十四節
 百二十五節 至百二十六節
 百二十七節 至百二十八節
 百二十九節 至百三十節
 百三十一節 至百三十二節
 百三十三節 至百三十四節
 百三十五節 至百三十六節
 百三十七節 至百三十八節
 百三十九節 至百四十節
 百四十一節 至百四十二節
 百四十三節 至百四十四節
 百四十五節 至百四十六節
 百四十七節 至百四十八節
 百四十九節 至百五十節
 百五十一節 至百五十二節
 百五十三節 至百五十四節
 百五十五節 至百五十六節
 百五十七節 至百五十八節
 百五十九節 至百六十節
 百六十一節 至百六十二節
 百六十三節 至百六十四節
 百六十五節 至百六十六節
 百六十七節 至百六十八節
 百六十九節 至百七十節
 百七十一節 至百七十二節
 百七十三節 至百七十四節
 百七十五節 至百七十六節
 百七十七節 至百七十八節
 百七十九節 至百八十節
 百八十一節 至百八十二節
 百八十三節 至百八十四節
 百八十五節 至百八十六節
 百八十七節 至百八十八節
 百八十九節 至百九十節
 百九十一節 至百九十二節
 百九十三節 至百九十四節
 百九十五節 至百九十六節
 百九十七節 至百九十八節
 百九十九節 至百一十節

ルカ九章本四〇六
マテ九章本五〇二
マテ九章本五〇三
マテ九章本五〇四
マテ九章本五〇五
マテ九章本五〇六
マテ九章本五〇七
マテ九章本五〇八
マテ九章本五〇九
マテ九章本五〇一〇
マテ九章本五〇一一
マテ九章本五〇一二
マテ九章本五〇一三
マテ九章本五〇一四
マテ九章本五〇一五
マテ九章本五〇一六
マテ九章本五〇一七
マテ九章本五〇一八
マテ九章本五〇一九
マテ九章本五〇二〇
マテ九章本五〇二一
マテ九章本五〇二二
マテ九章本五〇二三
マテ九章本五〇二四
マテ九章本五〇二五
マテ九章本五〇二六
マテ九章本五〇二七
マテ九章本五〇二八
マテ九章本五〇二九
マテ九章本五〇三〇
マテ九章本五〇三一
マテ九章本五〇三二
マテ九章本五〇三三
マテ九章本五〇三四
マテ九章本五〇三五
マテ九章本五〇三六
マテ九章本五〇三七
マテ九章本五〇三八
マテ九章本五〇三九
マテ九章本五〇四〇
マテ九章本五〇四一
マテ九章本五〇四二
マテ九章本五〇四三
マテ九章本五〇四四
マテ九章本五〇四五
マテ九章本五〇四六
マテ九章本五〇四七
マテ九章本五〇四八
マテ九章本五〇四九
マテ九章本五〇五〇
マテ九章本五〇五一
マテ九章本五〇五二
マテ九章本五〇五三
マテ九章本五〇五四
マテ九章本五〇五五
マテ九章本五〇五六
マテ九章本五〇五七
マテ九章本五〇五八
マテ九章本五〇五九
マテ九章本五〇六〇
マテ九章本五〇六一
マテ九章本五〇六二
マテ九章本五〇六三
マテ九章本五〇六四
マテ九章本五〇六五
マテ九章本五〇六六
マテ九章本五〇六七
マテ九章本五〇六八
マテ九章本五〇六九
マテ九章本五〇七〇
マテ九章本五〇七一
マテ九章本五〇七二
マテ九章本五〇七三
マテ九章本五〇七四
マテ九章本五〇七五
マテ九章本五〇七六
マテ九章本五〇七七
マテ九章本五〇七八
マテ九章本五〇七九
マテ九章本五〇八〇
マテ九章本五〇八一
マテ九章本五〇八二
マテ九章本五〇八三
マテ九章本五〇八四
マテ九章本五〇八五
マテ九章本五〇八六
マテ九章本五〇八七
マテ九章本五〇八八
マテ九章本五〇八九
マテ九章本五〇九〇
マテ九章本五〇九一
マテ九章本五〇九二
マテ九章本五〇九三
マテ九章本五〇九四
マテ九章本五〇九五
マテ九章本五〇九六
マテ九章本五〇九七
マテ九章本五〇九八
マテ九章本五〇九九
マテ九章本五〇一〇〇

れに事て後なち食飲すべしと僕主人の命せし事に従へんとて主人彼も諫すべしか然し我の意り
 斯れば亦なちら命せられし事をみ行たる時も我儕の無益の僕なすべき事を行たるなりと謂○イエ
 六エルサレムに往てサマリヤにガリラヤの中を經る村ありし十八は癩者ありて彼にわひ癒
 せしを擧げひけるに師イエと我儕を約したるにイエエ之を見て曰けるに往て己を祭司に見せ
 よ彼等ゆく間に潔られたりとの一人已が癒されたるを見て返來り大聲に神を榮めイエスの足下を俯
 伏して讃せり彼のサマリヤ人なりイエと答て曰けるに潔られし者十八に非や其九人の何處に在
 の異邦人の外も神を榮を歸せんとて返たる者あらざる乎また彼に曰けるに起て往なちの信仰なん
 を救り神の國に何の時きたる乎とパリサイの人に問ければイエと答て曰けるに神の國に歸れて來
 のに非ず此に視よ彼に視よと人言べき者も非ず夫神の國ハ爾曹の裏に在また弟子に曰けるに爾
 曹八の子の一日を見たく欲ふ日きたらん然ども見ざるべし人々なんちらに此に見よ彼に見よと曰ん然
 ども往なちを從ふ勿れうき電光の天の彼處より閃きたるに光が如く八の子も其日に如此あるべ
 然るべし即ちノ方舟に入日中で衆人食飲嫁娶など爲たりし洪水きたりて彼等を滅せり又
 ロトの時にも如此ありき衆人食飲貿易樹藝構造など爲たりしにロトより出日天より火と
 燬を雨せて彼等をみな滅せり八の子の驕るる日にも亦かく有べし其日に八人屋上に在り其黒
 在るも之を取たんとて下なかれ亦田畑にある者も同じ歸なかれロトの妻を憶へ凡そ其生命を救
 る者ハ之を失ひ若うの生命を失はん者ハ之を存べし我なんちらに告ぐ其夜六たり同床に在んに一
 人執れ一人ハ選ざるべし二人の婦どもに磨ひき居んに一人ハ執れ一人ハ選ざるべしかれらと答て曰
 けるに主と此事何處に有や彼等に曰けるに屍の在るところに應あつたらん
 第十八章 イエまた人の恒に祈禱して沮聖すべし爲に聲を彼等に語けるに 或邑に神を畏人
 とざる裁判人ありけるが其邑に聲あがりて我を我仇より救たまへと曰て彼に至じにかれ久く肯は
 りしかど其のち心の中に思けるに我神を畏人をも敬とざれば此をば彼が聲來て我を恥
 さざる爲に之を救はん主いひけるに不義ある裁判人の言し事を聽況て神ハ晝夜祈る所の選たる者
 久く恐ども終に救ざらんや我なんちらに告ぐ神ハ速に彼等を救はん然ども人の子きたらんとき信を世
 に見んや○又みづから義と意ひ人を輕むる或人にイエと此聲を語れり二人の事とて殿に登りて其
 八ハパリサイの一人ハ税吏なりきパリサイの人たちて自ら如此いひのれり神ハ我ハ他の人の如く強
 不義を證せず亦この税吏の如くにも有ざるを諷すわれ七日間に二次斷食し又すべて獲もの十分の一
 を獻たり税吏ハ遠く立てて天をも仰ぎ見ず其胸を拘て神ハ罪人なる我を憐れ給と曰り我なんちらに告
 へん此人ハ彼人より義と爲れて家に歸たり夫すべて自己を高る者ハ自ら卑する者ハ高らるべし○
 イエと答て曰けるに我を擧げられたる人々嬰孩を携來りしも弟子たちを見て之を責たりイエと嬰孩をよび弟子に曰
 けるに嬰孩を我を來せよ彼等を擧る勿れ神の國に居るは是の如き者なり誠ハ爾曹も告ぐ凡そ嬰孩の如
 くに神の國を承ざる者ハ人こそを得ざる也○或宰とて曰けるに善師よ永生を嗣ためわ我なん
 ちらを行べき乎イエと答て曰けるに何ん我を善と稱や一の外ハ善者之なし則ち神なり誠ハ爾が如
 くなり我を來せよ勿れ殺なかれ竊なかれ妄證を立てる勿れ爾の父と母とを敬へ答けるに是ハ我の如
 かり

マテ九章本四〇六
マテ九章本四〇七
マテ九章本四〇八
マテ九章本四〇九
マテ九章本四一〇
マテ九章本四一一
マテ九章本四一二
マテ九章本四一三
マテ九章本四一四
マテ九章本四一五
マテ九章本四一六
マテ九章本四一七
マテ九章本四一八
マテ九章本四一九
マテ九章本四二〇
マテ九章本四二一
マテ九章本四二二
マテ九章本四二三
マテ九章本四二四
マテ九章本四二五
マテ九章本四二六
マテ九章本四二七
マテ九章本四二八
マテ九章本四二九
マテ九章本四三〇
マテ九章本四三一
マテ九章本四三二
マテ九章本四三三
マテ九章本四三四
マテ九章本四三五
マテ九章本四三六
マテ九章本四三七
マテ九章本四三八
マテ九章本四三九
マテ九章本四四〇
マテ九章本四四一
マテ九章本四四二
マテ九章本四四三
マテ九章本四四四
マテ九章本四四五
マテ九章本四四六
マテ九章本四四七
マテ九章本四四八
マテ九章本四四九
マテ九章本四五〇
マテ九章本四五一
マテ九章本四五二
マテ九章本四五三
マテ九章本四五四
マテ九章本四五五
マテ九章本四五六
マテ九章本四五七
マテ九章本四五八
マテ九章本四五九
マテ九章本五〇
マテ九章本五一
マテ九章本五二
マテ九章本五三
マテ九章本五四
マテ九章本五五
マテ九章本五六
マテ九章本五七
マテ九章本五八
マテ九章本五九
マテ九章本六〇
マテ九章本六一
マテ九章本六二
マテ九章本六三
マテ九章本六四
マテ九章本六五
マテ九章本六六
マテ九章本六七
マテ九章本六八
マテ九章本六九
マテ九章本七〇
マテ九章本七一
マテ九章本七二
マテ九章本七三
マテ九章本七四
マテ九章本七五
マテ九章本七六
マテ九章本七七
マテ九章本七八
マテ九章本七九
マテ九章本八〇
マテ九章本八一
マテ九章本八二
マテ九章本八三
マテ九章本八四
マテ九章本八五
マテ九章本八六
マテ九章本八七
マテ九章本八八
マテ九章本八九
マテ九章本九〇
マテ九章本九一
マテ九章本九二
マテ九章本九三
マテ九章本九四
マテ九章本九五
マテ九章本九六
マテ九章本九七
マテ九章本九八
マテ九章本九九
マテ九章本一〇〇

に事て後なち食飲すべしと僕主人の命せし事に従へんとて主人彼も諫すべしか然し我の意り
 斯れば亦なちら命せられし事をみ行たる時も我儕の無益の僕なすべき事を行たるなりと謂○イエ
 六エルサレムに往てサマリヤにガリラヤの中を經る村ありし十八は癩者ありて彼にわひ癒
 せしを擧げひけるに師イエと我儕を約したるにイエエ之を見て曰けるに往て己を祭司に見せ
 よ彼等ゆく間に潔られたりとの一人已が癒されたるを見て返來り大聲に神を榮めイエスの足下を俯
 伏して讃せり彼のサマリヤ人なりイエと答て曰けるに潔られし者十八に非や其九人の何處に在
 の異邦人の外も神を榮を歸せんとて返たる者あらざる乎また彼に曰けるに起て往なちの信仰なん
 を救り神の國に何の時きたる乎とパリサイの人に問ければイエと答て曰けるに神の國に歸れて來
 のに非ず此に視よ彼に視よと人言べき者も非ず夫神の國ハ爾曹の裏に在また弟子に曰けるに爾
 曹八の子の一日を見たく欲ふ日きたらん然ども見ざるべし人々なんちらに此に見よ彼に見よと曰ん然
 ども往なちを從ふ勿れうき電光の天の彼處より閃きたるに光が如く八の子も其日に如此あるべ
 然るべし即ちノ方舟に入日中で衆人食飲嫁娶など爲たりし洪水きたりて彼等を滅せり又
 ロトの時にも如此ありき衆人食飲貿易樹藝構造など爲たりしにロトより出日天より火と
 燬を雨せて彼等をみな滅せり八の子の驕るる日にも亦かく有べし其日に八人屋上に在り其黒
 在るも之を取たんとて下なかれ亦田畑にある者も同じ歸なかれロトの妻を憶へ凡そ其生命を救
 る者ハ之を失ひ若うの生命を失はん者ハ之を存べし我なんちらに告ぐ其夜六たり同床に在んに一
 人執れ一人ハ選ざるべし二人の婦どもに磨ひき居んに一人ハ執れ一人ハ選ざるべしかれらと答て曰
 けるに主と此事何處に有や彼等に曰けるに屍の在るところに應あつたらん
 第十八章 イエまた人の恒に祈禱して沮聖すべし爲に聲を彼等に語けるに 或邑に神を畏人
 とざる裁判人ありけるが其邑に聲あがりて我を我仇より救たまへと曰て彼に至じにかれ久く肯は
 りしかど其のち心の中に思けるに我神を畏人をも敬とざれば此をば彼が聲來て我を恥
 さざる爲に之を救はん主いひけるに不義ある裁判人の言し事を聽況て神ハ晝夜祈る所の選たる者
 久く恐ども終に救ざらんや我なんちらに告ぐ神ハ速に彼等を救はん然ども人の子きたらんとき信を世
 に見んや○又みづから義と意ひ人を輕むる或人にイエと此聲を語れり二人の事とて殿に登りて其
 八ハパリサイの一人ハ税吏なりきパリサイの人たちて自ら如此いひのれり神ハ我ハ他の人の如く強
 不義を證せず亦この税吏の如くにも有ざるを諷すわれ七日間に二次斷食し又すべて獲もの十分の一
 を獻たり税吏ハ遠く立てて天をも仰ぎ見ず其胸を拘て神ハ罪人なる我を憐れ給と曰り我なんちらに告
 へん此人ハ彼人より義と爲れて家に歸たり夫すべて自己を高る者ハ自ら卑する者ハ高らるべし○
 イエと答て曰けるに我を擧げられたる人々嬰孩を携來りしも弟子たちを見て之を責たりイエと嬰孩をよび弟子に曰
 けるに嬰孩を我を來せよ彼等を擧る勿れ神の國に居るは是の如き者なり誠ハ爾曹も告ぐ凡そ嬰孩の如
 くに神の國を承ざる者ハ人こそを得ざる也○或宰とて曰けるに善師よ永生を嗣ためわ我なん
 ちらを行べき乎イエと答て曰けるに何ん我を善と稱や一の外ハ善者之なし則ち神なり誠ハ爾が如
 くなり我を來せよ勿れ殺なかれ竊なかれ妄證を立てる勿れ爾の父と母とを敬へ答けるに是ハ我の如
 かり

より守れる者なり イエスを聞いて曰けるハ爾なば一を賣りて貧乏者に施せば天に於て財からん而して來り我を從へ 三 され大なる富者なりしかば之を聞て甚く憂たり イエスの言に甚く憂へしを見て曰けるハ富る者の神の國ハ如何に難か 富る者の神の國ハより駝の針の孔を穿ハ却て易し 之を開る者豈も曰けるハ然ハ誰か救を受べき乎 イエス曰けるハ人の爲得ざる所ハ神の爲得んとす 之を救ひんや又第三百お難るべし 弟子この語を少しも違はず亦この言る事からばに應たり亦この語れる言を知りき 四 イエスエマリコお近よれる隙ある者道の旁に坐して乞たりしが 大衆の過を聞て此ハ何事かと曰けり 人々ナサレのイエスの過なりと告 警者よとく曰けるハガビラの裔イエスよ我を脅したまへ 前たち行者豈も黙止之を斥れんや愈ガビラの裔よ我を脅したまへと呼れり イエス立ち止り彼を捕來と命す 警者ちかよりければ イエス彼に問けるハ爾われに何を爲れんと欲んや答けるハ主よ見な人事を欲ム イエス彼お曰けるハ見よとを受し爾の信を今を救へり 彼やがて見之を崇てイエスに彼の民みな之を見て神を讚たり 二

第二十九節 イエスエマリコに於て經行とき 三 ナサライと云る人わり稊粟の長かて富る者なり イエスハ如何なる人なるか見んと欲んや身重ひくければ大衆なるお因て見よとを得ず 彼を見んとて趨ゆき桑樹に

日本〇九章一九〇節
一節六〇九
三節七〇九
九節七〇九
十一節七〇九
十三節七〇九
十五節七〇九
十七節七〇九
十九節七〇九
二十一節七〇九
二十三節七〇九
二十五節七〇九
二十七節七〇九
二十九節七〇九
三十一節七〇九
三十三節七〇九
三十五節七〇九
三十七節七〇九
三十九節七〇九
四十一節七〇九
四十三節七〇九
四十五節七〇九
四十七節七〇九
四十九節七〇九
五十一節七〇九
五十三節七〇九
五十五節七〇九
五十七節七〇九
五十九節七〇九
六十一節七〇九
六十三節七〇九
六十五節七〇九
六十七節七〇九
六十九節七〇九
七十一節七〇九
七十三節七〇九
七十五節七〇九
七十七節七〇九
七十九節七〇九
八十一節七〇九
八十三節七〇九
八十五節七〇九
八十七節七〇九
八十九節七〇九
九十一節七〇九
九十三節七〇九
九十五節七〇九
九十七節七〇九
九十九節七〇九

升れり イエスの道を通んとする故あり イエス此に來り仰て彼を見ひけるハザアカよ速き下れ我今日かちりテ爾の家にお宿らん 彼ら下りきて イエスを迎たり 衆人これを見てみな感言ひひけるハ彼ハ往て罪ある人の客と爲れり 一 ザアカ一起て主よ我所有の半を貧乏者に施さん若れ認て人より收たる所わらば四倍にして之を償のふべし イエス彼お曰けるハ今日この家すくよとて言たり蓋この人もアブラハムの裔なれど也 二 爾の子の喪ひし者を尋て救ん爲に來れり 衆人之言を聞てきたる所を設て曰り此ハエサルサムに近かつ 衆人神の國たきに顯明るべしと意ふ故なり 三 爾貴者みづから領地を受て歸んて遠國へ往時 十八の僕を召て彼等も金十斤をきて曰けるハ我來まで爾賣せよ 四 國民かれを憐て後より使を遣し曰けるハ我僕ての人を王とする事を欲す 領地を受て歸し時 爲の商人賣して幾何の利を得たるかを知んとて金をおさきたる僕等を召し命じぬ 初の一八きたりて曰けるハ主よ爾の一十斤の利を得たり 主人いひけるハ爾ハ少者に與なれ 十の邑を與せよ 六 又次の一八きたりて曰けるハ主よ爾の一十斤の利を得たり 主人いひけるハ爾も五の邑を與せよ 七 又また一八きたりて曰けるハ主よ爾の一十斤の利を得たり 主人いひけるハ爾も五の邑を與せよ 八 故に我おうれたり爾置ざる者をとり擲ざる者をかる人かればなり 九 主人いひけるハ惡僕よ我人心ちの口に因て爾を鞭べし爾わきハ嚴者にて置ざる者を取まかざる者を獲と知り 然に何ん我來るとき本と利を得んが爲め我金を充錢肆お預ざりしや 遂に傍に立る者に曰けるハ此の一十斤を取て十斤有る者に与ま 十 衆人主人に曰けるハ主よ其人すては十斤を有り 主人いひけるハ我なんぢらに告ん夫有る者ハ予られ不有る者ハ其所有のものも取るべし 且わが敵すなるとも支配を欲する者を此に與來りて我前に跪せ 十一

日本〇九章一九〇節
一節六〇九
三節七〇九
九節七〇九
十一節七〇九
十三節七〇九
十五節七〇九
十七節七〇九
十九節七〇九
二十一節七〇九
二十三節七〇九
二十五節七〇九
二十七節七〇九
二十九節七〇九
三十一節七〇九
三十三節七〇九
三十五節七〇九
三十七節七〇九
三十九節七〇九
四十一節七〇九
四十三節七〇九
四十五節七〇九
四十七節七〇九
四十九節七〇九
五十一節七〇九
五十三節七〇九
五十五節七〇九
五十七節七〇九
五十九節七〇九
六十一節七〇九
六十三節七〇九
六十五節七〇九
六十七節七〇九
六十九節七〇九
七十一節七〇九
七十三節七〇九
七十五節七〇九
七十七節七〇九
七十九節七〇九
八十一節七〇九
八十三節七〇九
八十五節七〇九
八十七節七〇九
八十九節七〇九
九十一節七〇九
九十三節七〇九
九十五節七〇九
九十七節七〇九
九十九節七〇九

1 本廿二章一節
 2 本廿二章二節
 3 本廿二章三節
 4 本廿二章四節
 5 本廿二章五節
 6 本廿二章六節
 7 本廿二章七節
 8 本廿二章八節
 9 本廿二章九節
 10 本廿二章十節
 11 本廿二章十一節
 12 本廿二章十二節
 13 本廿二章十三節
 14 本廿二章十四節
 15 本廿二章十五節
 16 本廿二章十六節
 17 本廿二章十七節
 18 本廿二章十八節
 19 本廿二章十九節
 20 本廿二章二十節
 21 本廿二章二十一節
 22 本廿二章二十二節
 23 本廿二章二十三節
 24 本廿二章二十四節
 25 本廿二章二十五節
 26 本廿二章二十六節
 27 本廿二章二十七節
 28 本廿二章二十八節
 29 本廿二章二十九節
 30 本廿二章三十節
 31 本廿二章三十一節
 32 本廿二章三十二節
 33 本廿二章三十三節
 34 本廿二章三十四節
 35 本廿二章三十五節

1 此事を言し衆人に先だちてエルサレムに上れり
 2 橄欖樹と名する山に據るベツパガとベツニヤに近つ
 3 ける時々の弟子二人を遣さんどて曰けるハ 對面の村にゆけ彼處から人々の未だ乘ざる所の繋たる驢馬
 4 に遇へし其を解て牽來れ もし誰か爾曹を何ゆ解やと問者おらば如此てたふへし主の用也 遣された
 5 る者往ければ果て其語たまへる如く遇ぬ 3 3
 6 3 3
 7 3 3
 8 3 3
 9 3 3
 10 3 3
 11 3 3
 12 3 3
 13 3 3
 14 3 3
 15 3 3
 16 3 3
 17 3 3
 18 3 3
 19 3 3
 20 3 3
 21 3 3
 22 3 3
 23 3 3
 24 3 3
 25 3 3
 26 3 3
 27 3 3
 28 3 3
 29 3 3
 30 3 3
 31 3 3
 32 3 3
 33 3 3
 34 3 3
 35 3 3

1 本廿二章一節
 2 本廿二章二節
 3 本廿二章三節
 4 本廿二章四節
 5 本廿二章五節
 6 本廿二章六節
 7 本廿二章七節
 8 本廿二章八節
 9 本廿二章九節
 10 本廿二章十節
 11 本廿二章十一節
 12 本廿二章十二節
 13 本廿二章十三節
 14 本廿二章十四節
 15 本廿二章十五節
 16 本廿二章十六節
 17 本廿二章十七節
 18 本廿二章十八節
 19 本廿二章十九節
 20 本廿二章二十節
 21 本廿二章二十一節
 22 本廿二章二十二節
 23 本廿二章二十三節
 24 本廿二章二十四節
 25 本廿二章二十五節
 26 本廿二章二十六節
 27 本廿二章二十七節
 28 本廿二章二十八節
 29 本廿二章二十九節
 30 本廿二章三十節
 31 本廿二章三十一節
 32 本廿二章三十二節
 33 本廿二章三十三節
 34 本廿二章三十四節
 35 本廿二章三十五節

且われに告よヨハナ子のパンテスマハ天よりか人よりか 彼等たがひを白けるハ若夫より云ハ然ハ何

1 故かれを信ぜざる乎と曰ん もし人よりと云バ民みなヨハナを預言者と信すれば我儕を石にて撃んとて
 2 遂に答て笑よりなるか知らずと曰り 3 3
 3 3
 4 3 3
 5 3 3
 6 3 3
 7 3 3
 8 3 3
 9 3 3
 10 3 3
 11 3 3
 12 3 3
 13 3 3
 14 3 3
 15 3 3
 16 3 3
 17 3 3
 18 3 3
 19 3 3
 20 3 3
 21 3 3
 22 3 3
 23 3 3
 24 3 3
 25 3 3
 26 3 3
 27 3 3
 28 3 3
 29 3 3
 30 3 3
 31 3 3
 32 3 3
 33 3 3
 34 3 3
 35 3 3

1 本廿四章一節
 2 本廿四章二節
 3 本廿四章三節
 4 本廿四章四節
 5 本廿四章五節
 6 本廿四章六節
 7 本廿四章七節
 8 本廿四章八節
 9 本廿四章九節
 10 本廿四章十節
 11 本廿四章十一節
 12 本廿四章十二節
 13 本廿四章十三節
 14 本廿四章十四節
 15 本廿四章十五節
 16 本廿四章十六節
 17 本廿四章十七節
 18 本廿四章十八節
 19 本廿四章十九節
 20 本廿四章二十節
 21 本廿四章二十一節
 22 本廿四章二十二節
 23 本廿四章二十三節
 24 本廿四章二十四節
 25 本廿四章二十五節
 26 本廿四章二十六節
 27 本廿四章二十七節
 28 本廿四章二十八節
 29 本廿四章二十九節
 30 本廿四章三十節
 31 本廿四章三十一節
 32 本廿四章三十二節
 33 本廿四章三十三節
 34 本廿四章三十四節
 35 本廿四章三十五節

1 葡萄園の主に於て彼等處べき乎 3 3
 2 3 3
 3 3 3
 4 3 3
 5 3 3
 6 3 3
 7 3 3
 8 3 3
 9 3 3
 10 3 3
 11 3 3
 12 3 3
 13 3 3
 14 3 3
 15 3 3
 16 3 3
 17 3 3
 18 3 3
 19 3 3
 20 3 3
 21 3 3
 22 3 3
 23 3 3
 24 3 3
 25 3 3
 26 3 3
 27 3 3
 28 3 3
 29 3 3
 30 3 3
 31 3 3
 32 3 3
 33 3 3
 34 3 3
 35 3 3

1 本廿四章一節
 2 本廿四章二節
 3 本廿四章三節
 4 本廿四章四節
 5 本廿四章五節
 6 本廿四章六節
 7 本廿四章七節
 8 本廿四章八節
 9 本廿四章九節
 10 本廿四章十節
 11 本廿四章十一節
 12 本廿四章十二節
 13 本廿四章十三節
 14 本廿四章十四節
 15 本廿四章十五節
 16 本廿四章十六節
 17 本廿四章十七節
 18 本廿四章十八節
 19 本廿四章十九節
 20 本廿四章二十節
 21 本廿四章二十一節
 22 本廿四章二十二節
 23 本廿四章二十三節
 24 本廿四章二十四節
 25 本廿四章二十五節
 26 本廿四章二十六節
 27 本廿四章二十七節
 28 本廿四章二十八節
 29 本廿四章二十九節
 30 本廿四章三十節
 31 本廿四章三十一節
 32 本廿四章三十二節
 33 本廿四章三十三節
 34 本廿四章三十四節
 35 本廿四章三十五節

1 解さんとして自ら義人と偽れる間者を遣せり 3 3
 2 3 3
 3 3 3
 4 3 3
 5 3 3
 6 3 3
 7 3 3
 8 3 3
 9 3 3
 10 3 3
 11 3 3
 12 3 3
 13 3 3
 14 3 3
 15 3 3
 16 3 3
 17 3 3
 18 3 3
 19 3 3
 20 3 3
 21 3 3
 22 3 3
 23 3 3
 24 3 3
 25 3 3
 26 3 3
 27 3 3
 28 3 3
 29 3 3
 30 3 3
 31 3 3
 32 3 3
 33 3 3
 34 3 3
 35 3 3

1 彼の書を遺り若人の兄弟妻あり子なくして死バ兄弟の妻を娶り子を生て其嗣を繼すべしと 然バ七八の

兄弟あらんを長子妻を娶り子なくして死 第二の者この婦を娶り子なくして死 第三も之を娶り七人同く之を娶り子なくして死 終つ婦も死たり 然る七人どもに此婦を妻とせし故に娶りたる時ハ誰の妻と爲べき乎 イエズ答て曰けるハ此世の子ハ娶婦とせり 彼世に入り死より復生に足ものハ娶婦とせり 是また死るべき能く故なり 蓋天の使と併く復生の子にて神の子なれば也 さて死し者の娶るべきとに就てハモイセ中筋中の篇主をアザラムの神ハイサカの神ヤコブの神と稱して之を明白せり 爾神ハ死たる者の神に非ざる者神なり 蓋神の前行ハ皆生る者なれば也 一の學者等てたて曰けるハ師よ善いへり 此のち敢てイエズに問者なかりき イエズ答て曰けるハ人々如何なればキリストをアザラムの裔と言や アザラム自ら詩の篇に主わが主に曰けるハ我なんんかの敵を爾の足登と爲すて我が右に坐すべしと云キ 然バアザラム之主を主と稱したれば如何で其裔ならん乎 民みな之を聽る時一の弟子にいひけるハ長服を衣て遊行てを好み市上にて人の問安會堂の高座總間の土座を富々學者を慎めよ 彼等ハ娶婦の家を呑いつとて長所をなす罪せらるべきと尤も重し

第三十一節 イエズ自をわび富人の捐輸を辨錢箱に投るを見る 又ある貧乏婦のレパンタを投たるを見て曰ける ハ 何を誠に爾曹に告ん此貧乏婦の者より多く投たり 蓋かれらハ皆一の美餘ある所より捐輸を神にさげ此婦ハ不足どころより其所有を盡く獻たれば也 又また或人厭の美石と奉納物を以て修飾るべきを許しに イエズ曰けるハ爾曹の見る所のもの石を石の上へも還すじさるべき日いたらん 彼等どく曰けるハ師よ何の時この事あらん正に此の事の來ん時ハ如何なる兆ある乎 イエズ曰けるハ爾曹つゝしみて感ざるも事なかれ蓋おほくの者が名を冒きたり 我ハキリストなり 時ハ近よ

ルカ九章九節
ルカ十章九節
ルカ十一節
ルカ十二節
ルカ十三節
ルカ十四節
ルカ十五節
ルカ十六節
ルカ十七節
ルカ十八節
ルカ十九節
ルカ二十節
ルカ二十一節
ルカ二十二節
ルカ二十三節
ルカ二十四節
ルカ二十五節
ルカ二十六節
ルカ二十七節
ルカ二十八節
ルカ二十九節
ルカ三十節
ルカ三十一節
ルカ三十二節
ルカ三十三節
ルカ三十四節
ルカ三十五節
ルカ三十六節
ルカ三十七節
ルカ三十八節
ルカ三十九節
ルカ四十節
ルカ四十一節
ルカ四十二節
ルカ四十三節
ルカ四十四節
ルカ四十五節
ルカ四十六節
ルカ四十七節
ルカ四十八節
ルカ四十九節
ルカ五十節

れり云え云然爾曹從ふ勿れ 戰を闘てき懼る勿れ 此等の事の先に有は止を得ざることを然ん未期ハ未だ速ならず 又いひけるハ民ハ民をせめ國國を攻め 各處に大なる地震饑饉疫病あり日あるべき事と大なる休徵天より現るべし 此事より先に人々爾曹を執へ苦め會堂もよび穢に解し我名を爲に王よび僕の前に曳往べし 然ども爾曹が此事に遣り證と爲なり 故に爾曹まづ何を對んと思慮せしむ事を中心に定よ 蓋すべて爾曹に仇する者の辨報をた敵討べきを爲さざるべき口と智とを我んながらに賜ん 又なながら父母兄弟親類朋友等より解され且また中のある者ハ殺さるべし 爾曹わが名の爲に人々に憫れん 然ども爾曹の首髮一縷も喪はじ なんぢら忍耐て其生命を全らせよ なんぢら軍勢にエルサレムの圍るゝを見なバ其口かきに在り知三一の時ニアザムに在るハ山に逃よエルサレムに在る者ハ出よ 山下に在るハエルサレムに入らなかれ 三 此れ刑罰の日にして錄されたる事のみな應らるべき日なり 其日にハ孕たる者も哺乳兒ある者も禍なる哉 此れ地に大なる災ありて怒の民お及びられ也 人々刀刃に斃れ且さらはれて諸國に曳れ エルサレムハ異邦人の時滿るまでハ異邦人に蹂躪さるべし また日月星に異象あるべし 地にてハ諸國の人哀み海と淚との瀑瀉に因て頓沛 人々危懼つゝ世界に來んとする事を俟懼ひべし 是天の勢ハ震動すべけれど 一の時人々ハ人の子の權威と大なる榮光を以て雲に乗來るを見るべし 此等の事の成初ハ時に入り起て爾曹の首を翹よ 蓋なんぢらの購ちかづけ心也 イエズ譬を彼等に語けるハ 無花果と凡の樹を見よ 既に南ハ爾曹之れを見て自ら哀ハはや近き知 此の如く爾曹も此等の事成を見バ神の國の近を知 誠に我んながらに告ん此事みな成までハ此世ハ逆さるべし 天地ハ廢るべし 然ども我言ハ廢る可らず 爾曹みづからを憤と恐ハ飲食に耽り世事小學爾曹の心昏迷なり

ルカ五章九節
ルカ六章九節
ルカ七章九節
ルカ八章九節
ルカ九章九節
ルカ十章九節
ルカ十一節
ルカ十二節
ルカ十三節
ルカ十四節
ルカ十五節
ルカ十六節
ルカ十七節
ルカ十八節
ルカ十九節
ルカ二十節
ルカ二十一節
ルカ二十二節
ルカ二十三節
ルカ二十四節
ルカ二十五節
ルカ二十六節
ルカ二十七節
ルカ二十八節
ルカ二十九節
ルカ三十節
ルカ三十一節
ルカ三十二節
ルカ三十三節
ルカ三十四節
ルカ三十五節
ルカ三十六節
ルカ三十七節
ルカ三十八節
ルカ三十九節
ルカ四十節
ルカ四十一節
ルカ四十二節
ルカ四十三節
ルカ四十四節
ルカ四十五節
ルカ四十六節
ルカ四十七節
ルカ四十八節
ルカ四十九節
ルカ五十節